

北海道ならではの
自然や産業を生かして

北海道に やさしい 新エネルギー

北の大地・北海道には、クリーンな新エネルギーがいっぱいです。
雪や風、太陽の光といった自然の恵みはもちろん
農林業の過程で生まれるバイオマス資源を活用するなど
その土地にあった取り組みが全道各地で展開されています。

雪氷

雪あるいは氷の冷熱を、建物の冷房や農作物の冷蔵に使います。日本の先駆地は北海道。なかでも農業と結びつけた空知地方の取り組みは、全国的に注目されています。



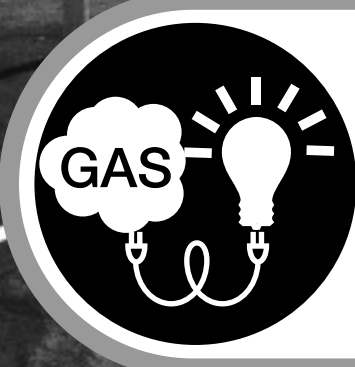
バイオマス

家畜のふん尿からガスをつくって発電したり、間伐材やおがくずから木質ペレットと呼ばれる燃料をつくります。車の燃料としての利用には、廃食油などからつくるバイオディーゼル燃料（BDF）や、規格外のビートや小麦などでつくるバイオエタノールがあります。



天然ガス コージェネレーション

天然ガスは、石炭や石油に比べ、CO₂の排出が少ないクリーンなエネルギーです。この天然ガスで電気をつくると同時に、排熱も利用するのが天然ガスコージェネレーションです。天然ガスは苫小牧市の勇払で産出されており、地元の資源を使えることが、北海道の強みとなっています。



風力発電

風の力で風車を回して発電します。国内では風況に恵まれた北海道の日本海側から普及が進み、全国に広がりました。今も北海道は、風力発電の導入量日本一の座を守り続けています。



太陽光発電

太陽の光を直接電気に変えて利用します。日本の導入量は世界一でしたが、近年ドイツに抜かれ2位に。道内では日照に恵まれた道東方面をはじめ、全道各地で普及が進んでいます。



廃棄物

ごみを燃やすときに出る熱を発電に利用します。この方式はごみ処理場などで導入されています。また、紙やプラスチックなどのごみからRPFと呼ばれる固形燃料もつくられています。

写真／宗谷岬ウインドファーム

●参考：北海道経済部「北海道 省エネルギー・新エネルギーBOOK」、独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構ウェブサイトほか